

令和8年6月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	14	議席 番号	11	氏名	岩村 恵美 議員	1 / 1
発言項目		要 旨				答弁者
1	若者の市販薬オーバードーズ問題、SNS時代の薬物乱用対策として	<p>近年、若者を中心に市販薬（OTC医薬品）の過剰摂取、いわゆるオーバードーズが全国的な社会問題となっている。せき止め薬や風邪薬など家庭でも容易に入手できる医薬品が乱用され、救急搬送や依存につながる事例も報告されている。また、ダイエット目的の医薬品使用、マンジャロの実態把握と予防教育について、以下伺う。</p> <p>(1) 市内におけるオーバードーズに関する相談件数や実態を把握しているか。</p> <p>(2) 違法薬物（覚醒剤や大麻）だけでなく、ドラッグストアで買える市販薬でも依存症になる可能性があることを市はどのように周知し、教育対象としているか。</p> <p>(3) SNS経由で広がる誤った医薬品情報への対策はあるか。</p> <p>(4) 市内の薬剤師会や医療機関との連携状況はいかがか。</p>				市長 副市長 教育長 関係部長
2	健康寿命日本一へ	<p>2030年～2040年にかけて、団塊ジュニア世代の高齢化と現役世代の激減により、医療・介護の需要がピークに達する。介護難民の発生、救急車の逼迫や病院の倒産が相次ぎ、入院・手術待ちが常態化することで適切な医療が受けられなくなる医療崩壊の深刻な危機が指摘されている。それらを踏まえて以下伺う。</p> <p>(1) 当市の健康寿命、平均寿命、要介護（要支援）認定者数、医療費、介護給付費の現状（令和7年度末時点）について。</p> <p>(2) 2030年・2040年問題が迫る中、当市の医療・介護ニーズのピークアウトをどう予測しているか。また、その対策は。</p> <p>(3) スウェーデンでは医療機関と運動施設が連携し、運動を健康維持の重要な手段として活用している。当市においても、民間事業者が運営する24時間年中無休フィットネスジムが複数進出し、身近な健康インフラとして定着しつつある。そこで、一般介護予防事業における、転倒骨折予防教室のさらなる利用促進につながるよう、新たな民間事業者と協力関係を構築していくことに対する意向を伺う。</p>				市長 副市長 教育長 関係部長